

よらになったことから、一部の歯科医師にこれらの現状への対応が求められるようになった。

本書は、冷風機歯肉の腫占や咬み合わせ治療により、さまざまな不定型歯が治った例を紹介し、全身状況に対応するという、著者が実践している歯科治療の概要をまとめたもの。

既読病を避けるために、できるだけ使わない、創らない治療を心がけ、「1日バランス」という考え方に基づくスグロン単位の治療によって、歯肉を腫れさせているという。



歯科医院・歯科医師と
保護者・保育者をつなぐ
子どもの歯を守る
キーワード59

朝田芳信 著
重田優子 絵
B5変型判
144p
2,500円+税
学建書院

歯科口腔領域における育成医学が急速に発展してきている。この背景には、小児の口腔内の健康状態が二極化してきており、多数歯う蝕が一部の層に集中する一方、大多数の小児にう蝕がなく、保護者の口腔育成への関心も高くなっているという事情がある。

本書は、子どもの歯の健康を守り、育てるための専門知識を59のキーワードに区分し、見開き2ページで分かりやすく解説している。オールカラーで、写真のほか鶴見大学の重田優子講師(クラウンブリッジ補綴学)によるイラストも可愛い。

ややもすれば「分かりにくい」と敬遠されがちな学術用語だが、口腔の育成に対する関心を高めるためには、正しい理解を得ることが求められる。「子どもの発育」「歯並びと咬み合わせ」などテーマ別の目次に加え、項目別にあいうえ

順に並んだ索引もあるので、保護者への説明もしやすい。文章量が少なく一項目を短時間で読めるので、待合室に置くのもお勧め。



歯科診療のための
漢方薬ガイド
歯科漢方
ポケットブック
林本洋明 著
メタファーグループ1985 企画
B5判
108p
3,000円+税
京栄書店

内科漢方薬を中心に、西洋薬との併用をはじめめとして広く漢方薬が用いられているが、歯科口腔領域でも応用が可能な漢方薬が知られるようになってきた。

本書は、補綴である「歯科漢方ハンドブック 第一版」の内容を一新し、ポケット判にまとめたもの。巻頭では、漢方の基本的な考え方や処方の特徴について説明。注釈や「生薬や処方薬の置き方」についても触れている。第2章以降では、歯科治療で漢方薬を活用しやすいよう、漢方薬が有効とされる代表的な疾患と、これらに対応する歯所見をカラー写真で紹介している。

歯の痛みや歯肉炎をはじめ、顎関節症や顎咬筋痛、口腔乾燥症や舌痛症など、さまざまな疾患の症状にも対応する漢方薬の処方がある。歯科への対応にも通じているといえる。

何より簡潔な歯科医師にとって助かるのは、処方箋に保険適用エス剤の番号に対応していること。歯科対応がないが、歯科では処方しにくい薬はあえて紹介していないこと。阻害薬に漢方薬を取り入れるための入門編として有用な一冊。